

第八話 帯に短し、たすきに長し

このあたりが、まだみんな海だった頃の、ずっとずっとむかしの話です。

他所^{よそ}の方からね、船で商人がやってきたんだと。

大きな船で来た人がね、その島ところに船を停めて、太いロープを島の首に巻いて舟を停めて、そこから小さい舟に、着物とかなんかいろんなものを乗せて、海岸まで漕いできて、そこで土地の人といろいろお話して、物々交換をやったって聞いたね。

その船の人は、来るたびにお土産持ってきてくれるんだと。

こっちの土地では見たこともないような物を、お土産にくれるもんだから、こっちの人は珍しいものを、その船の人に教えられていたんだと。

ある時、帯のようなものを頂戴したんだと。それで、帯にして巻こうとおもったれば、短すぎたんだと。

そこで、今度は、仕事するときの襷^{たすき}にしようとしたら、長すぎて使うことができなかったんだと。帯に短し、襷^{たすき}に長し、ってわけしや。

そこで、みんなで頭ひねってかんがえたんだね。

「よし。ほんじゃ、いいわ。帯にしたり襷^{たすき}にしたりするのをやめて、八幡^{やわたはちまん}八幡さんにお納めしよう」ってことになったんだと。

そして、あのカラncランって揺すって、拝むときに鈴をならすでしょう。あの鈴の緒にしたんだと、その帯のような物を。とてもきれいな、鈴の緒が八幡様の鈴にはついているのはこういうわけだったんだと。

